

8 但馬地域に適したイタリアンライグラスの品種選定

ねらいと成果

飼料作物は、収量性、病害虫の抵抗性等の改良が進み、多くの品種が流通している。これらの中から地域の気候に適合した収量性の高い品種を選定することは、飼料作物の低コスト生産を図る上で重要な課題である。そこで、但馬地域に適したイタリアンライグラスの品種選定の基礎資料とするため、現在市販流通している3品種（ハナミワセ、ヒタチヒカリ、エース）について一番草の生育、収量及び栄養成分について調査した。その結果、但馬地域ではエースが最も栽培に適していた。

内容

調査は、当センター内の圃場で実施した。イタリアンライグラス3品種（ハナミワセ、ヒタチヒカリ、エース）を1区面積6㎡とし、4反復乱塊法で400g/a散播した。

施肥は、元肥として化成肥料（N:P:K=10:15:10）5.2kg/a、追肥（N:P:K=16:0:16）3.5kg/a、堆肥0.3t/a、BM 溶リン及び石灰5.6kg/aを投入した。

刈り取り時期は出穂期を目安とした。調査項目は、生育特性では刈り取り時の草丈、倒伏、病害、収量特

性では生草重量及び乾物重量である。飼料成分は近赤外線法により測定した。

その結果、草丈はヒタチヒカリが115cmと最も高く、次いでエース112cm、ハナミワセ102cmであった。倒伏はヒタチヒカリのみみられた。また、病害虫の被害は3品種とも見られなかった。生草重量はエースが480kg/aと最も多く、次いでヒタチヒカリ335kg/a、ハナミワセ198kg/aであった。乾物重量もエースが最も多く79kg/a、ヒタチヒカリ71kg/a、ハナミワセ55kg/aの順であった（表1）。

風乾物の飼料成分については、3品種間に差はなかった（表2）。

今回の試験で、ハナミワセの収量が特に少なかったのは、ハナミワセが極早生タイプであったためと思われる。但馬地域では、晩生タイプの方が栽培に適していると推察された。

普及上の注意事項

刈り取り適期は、品種により異なるので、生育状況（出穂はじめ、出穂期等）をよく観察して実施する必要がある。

坂瀬 充洋（北部農技・畜産部）

表1 生育及び収量調査結果

品 種	草 丈 cm	倒 伏 無 0～甚 5	病 害 無 0～甚 5	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a
ハナミワセ	102	0	0	198	55
ヒタチヒカリ	115	1.3	0	335	71
エース	112	0	0	480	79

表2 風乾物の飼料成分分析結果

品 種	水 分	粗蛋白質	粗脂肪	可溶無窒素物	粗繊維	粗灰分
ハナミワセ	13.5	10.0	2.7	50.6	27.5	9.3
ヒタチヒカリ	13.1	9.3	2.6	47.5	30.5	10.1
エース	14.3	9.8	2.8	46.4	30.5	10.6

（風乾物中％）